

平成 15 年度全国大会第 58 回年次学術講演会 実施要領

実施期日 …… 2003 年 9 月 24 日 (水), 25 日 (木), 26 日 (金) の 3 日間
実施場所 …… 徳島大学 (徳島市南常三島町 2-1 常三島キャンパス)

実施要領は平成 14 年度版に準拠しています!

- ・講演概要集を CD-ROM 化し登録参加手続きをした参加者全員に配布します。
- ・インターネット WWW 上で、講演の申込みと投稿原稿の受付をします。
- ・投稿原稿は PDF ファイル形式で受け付けます。
- ・講演者および聴講者の全員から登録参加料を一律いただきます。
- ・参加者は事前に登録参加申込みが必要です。
- ・土木学会の CPD (継続教育) 対象プログラムです。「継続教育記録簿」持参者は、講演・聴講の時間に応じた CPD 単位を取得できます。
- ・WEB による案内 URL : <http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/>

下の「読み方」を参考に
本実施要領を熟読して、
申し込んでください。

実施要領の読み方

土木学会第 58 回年次学術講演会 (平成 15 年度全国大会) を開催いたします。講演申込方法、聴講者の参加申込方法、料金体系の取扱いは平成 14 年度の全国大会に準拠しています。まず次ページの「日程一覧」、「講演者・聴講者の資格と登録参加料」、「1. 年次学術講演会の概要」をご覧ください、その上で以下の該当する部分を熟読のうえ、手続きを取っていただきますようお願いいたします。

講演の申込みをされる方 (電子申込みをする場合)

4 ページ

インターネットを利用した電子申込みを原則とします。原稿ファイルの形式は PDF 形式のみ受け付けます。登録参加料は 10 000 円 (学生は 7 000 円) になります (講演申込料, 参加費を含む。CD-ROM 版講演概要集は配布)。講演者は、講演申込みを登録参加申込みと兼用とするため改めて登録参加申込みをする必要はありません。大会当日に登録参加料を支払う必要もありません。なお、最新の情報につきましては、土木学会全国大会委員会ホームページ <http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/> をご覧ください。

講演の申込みをされる方 (電子申込みをしない (紙面申込みをする) 場合)

5 ページ

従来どおり紙面による講演申込みも受け付けます。ただし、この場合の登録参加料は 15 000 円 (学生は 12 000 円) になります (電子化経費, 講演申込料, 参加費を含む。CD-ROM 版講演概要集は配布)。講演者は、講演申込みを登録参加申込みと兼用とするため改めて登録参加申込みをする必要はありません。大会当日に登録参加料を支払う必要もありません。

講演はせず聴講のみで参加される方

6 ページ

事前の登録参加 (聴講) 申込みを原則とします。登録参加料は 10 000 円 (学生は 7 000 円) になります (CD-ROM 版講演概要集は配布)。登録参加 (聴講) 申込み期間外での申込みも可能ですが、登録参加料は割増しになります。大会当日、CD-ROM 版概要集が閲覧できるサービスを行う予定はありませんので、登録参加 (聴講) 申込み期間内で申込みを行い事前に CD-ROM 版概要集を入手されることをお勧めいたします。

印刷版講演概要集廃止について

印刷版講演概要集については、販売部数とその印刷に関連する作業量の多さを考え、昨年より廃止しています。ご理解のほどよろしくお願ひします。なお、CD-ROM 版 (全部門収録) を登録参加者全員に配布いたします。

目次

実施要領の読み方 ……	1	共通セッションテーマ ……	7
日程一覧, 講演者・聴講者の資格と登録参加料, 問合せ先一覧 ……	2	特別セッションテーマ, 部門別セッション名 ……	9
1. 年次学術講演会の概要 ……	3	講演申込要領 (電子申込み) ……	11
2. 講演の申込みをされる方 (電子申込みをする場合) ……	4	講演申込要領 (紙面申込み) ……	17
3. 講演の申込みをされる方 (電子申込みをしない (紙面申込みをする) 場合) ……	5	講演申込書 ……	18
4. 講演はせず聴講のみで参加される方 ……	6	講演原稿執筆要領 ……	22
		聴講者の登録参加申込要領 ……	24
		聴講者の登録参加 (聴講) 申込書 ……	25

日程一覧

(年次は西暦2003年)

月	講演者(電子申込み)	講演者(紙面申込み)	聴講のみの参加者
3	講演申込みの受付開始: 3月3日(月)12時 非会員の方は3月20日(木)までに入会手続きを済ませてください(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください。http://www.jsce.or.jp/outline/admission/mem_p_f.html)	講演申込みの受付開始: 3月3日(月)10時	
4	講演申込みの締切: 4月4日(金)17時 講演申込みの確認: 4月8日~15日	講演申込みの締切: ・郵送の場合 4月3日(木)(当日消印有効) ・持参の場合 4月4日(金)17時	
5	学会誌6月号において大会概要の掲載		
6	土木学会ホームページ http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/ において大会案内の掲載		期間内登録参加申込みの受付開始: 6月2日(月)10時
7	学会誌7月号において大会案内の掲載		期間内登録参加申込みの締切 ・郵送の場合 7月31日(木)(当日消印有効) ・持参の場合 7月31日(木)17時
8	期間後登録参加申込み		
9	参加証・CD-ROM版講演概要集の送付: 9月上旬 全国大会開催: 9月24日(水), 25日(木), 26日(金)		

講演者・聴講者の資格と登録参加料

(年次は西暦2003年)

	講演者(電子申込み)	講演者(紙面申込み)	聴講のみの参加者			
			申込期間内 (6月2日~7月31日受付)		申込期間後 (8月1日~8月29日, 当日受付)	
資格	土木学会会員および海外の協定学協会会員に限る ¹		会員	非会員	会員	非会員
登録参加料	1000円 ²	10000円 ² +5000円 ⁴ =15000円	10000円 ³	20000円 ⁵	12000円 ^{3,6}	20000円 ⁵
一般						
学生	7000円 ²	7000円 ² +5000円 ⁴ =12000円	7000円 ³	10000円 ⁵	8400円 ^{3,6}	10000円 ⁵

- ¹ 2003年3月20日(木)までに入会手続きを完了されていれば、会員番号がない方も会員として扱われます。それまでにご入会ください(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください。http://www.jsce.or.jp/outline/admission/mem_p_f.html)
- ² 学生で大会開催までに卒業予定の方の登録参加料は申込時点での資格となります。
- ³ 講演者の登録参加料には講演申込料、参加費が含まれています。CD-ROM版講演概要集は配布。
- ⁴ 聴講者の登録参加料には参加費が含まれています。CD-ROM版講演概要集は配布。
- ⁵ 講演原稿の電子化にかかる経費として徴収させていただきます。
- ⁶ 非会員の登録参加料は割増しになります。
- ⁷ 登録参加申込みの期間(2003年6月2日~7月31日)を過ぎますと、2割増分の登録参加料を頂戴いたします。

問合せ先一覧

問合せ内容	担当	住所	TEL / FAX	E-mail
講演申込み(電子申込み)	土木学会事務局企画広報室 担当: 赤池	〒160-0004 新宿区四谷1丁目 無番地	03-3355-3433 / 03-5379-2769	inf2@jsce.or.jp
	電子投稿に関する専用電話		03-3642-9797	jsce@kcc.co.jp
講演申込み(紙面申込み)・ 参加登録申込み(聴講)	土木学会事務局総務課 担当: 和志武		03-3355-3442 / 03-5379-0125	office@jsce.or.jp
	土木学会事務局会員課 担当: 竹田, 村木		FAX 03-5379-2769	member@jsce.or.jp

(1) 実施期日 2003年9月24日(水), 25日(木), 26日(金)の3日間

(2) 実施場所 徳島大学(徳島市南常三島町2-1 常三島キャンパス)

(3) 講演部門

講演部門は次の7部門および共通/特別セッションからなります。

各部門の具体的なセッション名は, 9, 10ページをご覧ください。

第I部門 応用力学, 構造工学, 鋼構造, 耐震工学, 地震工学, 風工学, 等

第II部門 水理学, 水文学, 河川工学, 水資源工学, 港湾工学, 海岸工学, 海洋工学, 環境水理, 等

第III部門 土質力学, 基礎工学, 岩盤工学, 土木地質, 地盤環境工学, 等(主な論点が地盤工学に関するものであること)

第IV部門 土木計画, 地域都市計画, 国土計画, 交通計画, 交通工学, 鉄道工学, 景観・デザイン, 土木史, 測量, 等

第V部門 土木材料, 舗装工学, コンクリート工学, コンクリート構造, 等

第VI部門 建設事業計画, 設計技術, 積算・契約・労務・調達, 施工技術, 環境影響対応技術, 維持・補修・保全技術, 建設マネジメント, 等(主な論点が建設工事に関するものであること)

第VII部門 環境計画・管理, 環境システム, 用排水システム, 廃棄物, 環境保全, 等

(いずれの部門においてもその部門に関連した地球環境問題を扱う。)

共通セッション

上記の7部門を越えた研究および複数の部門に関連する研究のテーマを対象として, 共通セッションを設けます。今年度の共通セッションのテーマは, 公募によるテーマから7, 8ページに示す16件が仮テーマとして選定されました。共通セッションの最終的なテーマ名は講演申込み完了後に決定されます。

特別セッション

本セッションは講演者をフェロー会員に限定した特別セッションで, フェロー会員から全世代の土木技術者へ提案や問題提起をしていただき, 部門, 世代を越えた議論の場を作ることを目指しています。そして, 土木分野が21世紀の国づくりに果たす役割を考え, 未来へ向けて情報を発信していきます。テーマは9ページをご覧ください。

(4) 講演内容

年次学術講演会にふさわしい内容を備えたものとし, 原則として未発表のものとしします。

(5) 講演時間

1題あたりの講演時間は, 質疑時間を除く原則として7

分とします。その他のセッションの運営については座長の指示に従ってください。

(6) 講演方法

各部門とも個人発表のみとします。一般発表では, OHP(オーバーヘッドプロジェクター)を用いる用意をし, 聴講者が発表自体に注意を集中できるように配慮してください。

液晶プロジェクタ使用による発表は今年も試行を予定しています。詳しくは学会誌7月号とホームページでお知らせいたします。

(7) 講演申込題数

全部門を通じて講演者(登壇者)1人につき1題に限ります。

(8) 優秀講演者表彰について

例年どおり, 優れた講演を行った若手研究者, 技術者を表彰いたします。詳細は学会誌7月号の全国大会案内に掲載いたします。

(9) その他

英語による講演も歓迎します。英文講演概要は, 和文執筆要領に準じて作成してください。なお, ポスターセッションは, 本年度も休止とさせていただきます。

(10) 講演資格

講演できるのは, 土木学会会員もしくは海外の協定22学協会会員に限ります。

海外の協定22学協会

1. ASCE(米国土木学会)
2. CCES(中国土木工程学会)
3. CICHE(中国土木水利工程学会)
4. CNISF(フランス科学・技術者会議)
5. CSCE(カナダ土木学会)
6. ECCE(ヨーロッパ土木技術者評議会)
7. EIT(タイ工学会)
8. FECIC(メキシコ土木学会)
9. HKIE(香港工程師学会)
10. ICE(英国土木学会)
11. IE, AUST(オーストラリア工学会)
12. IEA(シンガポール工学会)
13. IEB(バングラデシュ工学会)
14. IEI(インド工学会)
15. IEM(マレーシア工学会)
16. IEP(パキスタン工学会)
17. KSCE(大韓土木学会)
18. MACE(モンゴル土木学会)
19. PICE(フィリピン土木学会)
20. SVR(スウェーデン土木構造工学会)
21. TCCE(トルコ土木学会)
22. VCA(ベトナム建設協会)

講演の申込みをされる方（電子申込みをする場合）

(1) 講演申込みの資格

講演申込みができるのは、申込時点で個人の土木学会の会員に限ります。非会員の方は遅くとも2003年3月20日(木)までに土木学会入会手続きを済ませてください(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください。http://www.jsce.or.jp/outline/admission/mem_p_f.html。入会申込書郵送の場合は、締切日までに到着分のみ有効です)。期限を過ぎると電子申込みはできません。なお、海外の協定22学協会会員は本会会員とみなします(学協会名は3ページをご参照ください)。

上記期限までに入会手続きを済まされた方で、講演申込みの時点でまだ会員番号のない場合は、下記の土木学会事務局会員課にお問合わせください。

なお、講演申込み締切日間際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

入会には下記手続きが必要です。

- ・インターネット入会申込の場合：インターネット入会手続と、会費納入が必要です。
- ・紙面による入会申込の場合：申込書提出と、会費納入(送金の場合は会費の払込票兼受領証(郵便振替)のコピーを添付して土木学会事務局会員課まで郵送、あるいは持参)が必要です。

会員番号の問合せ先・入会申込書等送付先：

(社)土木学会事務局会員課

FAX 03-5379-2769

E-mail: member@jsce.or.jp

(入会申込書は土木学会ホームページ

http://www.jsce.or.jp/の「入会案内」からの

取り出し、または支部でも入手できます)

電話が大変込み合いますので、FAXの到着確認はご遠慮ください。

(2) 講演の電子申込み

2003年3月3日(月)～4月4日(金)17時までの期間内に、土木学会全国大会委員会ホームページhttp://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/を使って、講演申込書と講演原稿を同時に投稿してください。具体的な方法は11ページ掲載の「講演申込要領(電子申込み)」をご覧ください。なお、電子投稿の際、土木学会会員番号や生年月日等の入力が必要となります。協定学協会会員の電子申込みは、記載内容が異なるため、下記の全国大会委員会係へお問合せご連絡ください。

電子申込みはインターネットのみで受け付けます。フロッピーディスク等の郵送、持参による受付はいたしませんのでご注意ください。

電子申込みの場合も、登録参加料(講演料)の振込みは電子化してありません。本誌縦じ込みの郵便振替用紙を使用して申込み期限までに登録参加料をお支払ください。また、入金確認のためと電子申込みに関する事務的確認作業等のため、官製はがきに講演者の氏名、会員番号、電子申込みを行った際に発行される受付番号、および連絡先住所、氏名、電話番号、E-mailアドレスを明記のうえ、払込票兼受領証のコピーを添付して、4月4日(金)(当日消印有効)までに下記の土木学会全国大会委員会係まで郵送してください。事務局にて確認後、講演申込みを受理します。講演申込みが受理された方には、大会前に講演者用の参加証およびCD-ROM版講演概要集をお送りします。なお、参加証およびCD-ROM版講演概要集の発送は9月上旬を予定しておりますので、この時期に確実に届く住所を記載してください(申込後住

所変更された場合は、下記全国大会委員会係へご連絡ください)。

原稿は22ページ掲載の「講演原稿執筆要領」に従ってご執筆ください。

電子申込みした論文内容が正しく転送されているかどうかの確認期間を2003年4月8日(火)～15日(火)まで設けます。講演申込者自身で必ず確認してください。

申込み期間締切り間際に投稿が集中しますと、予期せぬ事態によりサーバーがダウンし受付ができなくなる恐れがあります。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。

なお、原稿提出のないもの、登録参加料納付のないもの、電子受付で講演原稿執筆要領に準じていないもの、および期限後の電子投稿のものは原則として受理できません。また、講演原稿も電子申込みと同時に投稿ですので、お忘れのないようお願いいたします。原稿の差し替えおよび修正には応じられません。必ず最終原稿を電子投稿してください。

問合せ・郵送先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地

(社)土木学会 全国大会委員会係

TEL 03-3355-3433, FAX 03-5379-0125

E-mail: inf2@jsce.or.jp

官製はがき	おもて	うら
	〒160-0004	登録参加料振込確認票 <講演申込み(電子申込)>
東京都新宿区四谷1丁目無番地	講演者	氏名：四谷 太郎
社団法人土木学会	会員番号	：190099999
全国大会委員会係	受付番号	：3250
	連絡先	住所：東京都千代田区五谷3番地 土木大工学部土木学科コンクリート研究室
		氏名：四谷 太郎
		電話番号：03-3355-3441
		電子メールアドレス： yotsuya@doboku-u.ac.jp
		払込票兼受領証のコピーを貼り 付ける

登録参加料振込確認票の記入例

(3) 講演者の登録参加料

講演1件につき登録参加料(講演申込料、参加費を含む。CD-ROM版講演概要集は配布)として10000円(学生7000円)を縦じ込みもしくは郵便局備付けの郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。振込手数料は各自ご負担願います。下記口座には会費を振込まないでください。

この登録参加料には、講演申込料、大会参加費が含まれ、登録者には全部門の講演原稿を掲載したCD-ROM版講演概要集を配布します。なお登録参加料は、申込後に発表を取り消した場合でも、返金いたしません。

また、後払いの手続きは行いませんのでご了承の程お願いいたします。

年次学術講演会 郵便振替口座：

口座番号：00180 8 16210

口座名：社団法人土木学会

(4) 採否

採否については全国大会委員会にご一任ください。

(1) 講演申込みの資格

講演申込みができるのは、申込時点で個人の土木学会の会員に限ります。非会員の方はできるだけ早く入会手続きを済ませてください(インターネット入会申込受付サービスをご利用ください。http://www.jsce.or.jp/outline/admission/mem_p_f.html)。4月4日(金)の講演申込締切時まで、講演申込書および講演原稿と一緒に、インターネット新入会申込完了ページ(紙面による入会申込の場合は入会申込書)および会費の払込票兼受領証(郵便振替)のコピーを添付して、郵送あるいは持参してください。なお、海外の協定22学協会会員は本会会員とみなしますので、所属する学会員証のコピーを添付してください(学協会名は3ページをご参照ください)。

郵送される場合は講演申込書の会員番号記入欄に「手続中」と記入してください。入会手続きは、できるだけ早く講演申込みとは別に済まされるようお願いいたします。

事前に入会手続きを済まされた方で、講演申込みの時点でまだ会員番号のない場合は、下記の土木学会事務局会員課にお問合わせください。

なお、講演申込み締切日間際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

土木学会入会申込書の請求・送付先:

(社)土木学会事務局会員課

FAX 03-5379-2769

E-mail: member@jsce.or.jp

(入会申込書は土木学会ホームページ http://

www.jsce.or.jp/の「入会案内」からの取り

出し、または支部でも入手できます)

電話が大変込み合いますので、FAXの到着確認はご遠慮ください。

(2) 講演の申込方法

申込期間内に、土木学会事務局まで講演申込書と講演原稿を同時に郵送あるいは持参してください。申込期間は以下のとおりです。

・紙面申込みで郵送の場合:

2003年3月3日(月)~4月3日(木)(当日消印有効)

・紙面申込みで持参の場合:

2003年3月3日(月)~4月4日(金)17時

具体的な方法は17ページ掲載の「講演申込要領(紙面申込み)」をご覧ください。なお、紙面により投稿された申込内容と講演原稿を電子化するための経費(電子化経費)として登録参加料とは別に5,000円徴収いたします。

協定学協会会員の申込みも、17ページの講演申込要領および記載例をご参照ください。

本誌綴じ込みの郵便振替用紙を使用して申込み期限までに登録参加料と電子化経費をお支払ください。講演申込書に所定事項を記入し、講演原稿と登録参加料を郵便局で納入した際の払込票兼受領証のコピーを添えて、郵送あるいは持参してください。

封筒に一般セッションは「第 部門」と、共通/特別セ

ッションは「共通」または「特別」と朱書きしてください。なお、複数編を一括して申込み場合でも1編ごとに封筒に入れて、前述の朱書きを厳守してください。

専用の原稿用紙はありません。原稿は22ページ掲載の「講演原稿執筆要領」に従ってご執筆ください。

なお、登録参加料の納付のないもの、期限後の消印のもの、および期限後に持参したものは受理できません。また、講演原稿も同時提出ですので、お忘れのないようお願いいたします。原稿の差し替えおよび修正には応じられません。必ず最終原稿を提出してください。

問合せ・郵送先:

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地

(社)土木学会 全国大会委員会係

TEL 03-3355-3442, FAX 03-5379-0125

E-mail: office@jsce.or.jp

〒160-0004

東京都新宿区四谷1丁目無番地

社団法人土木学会

全国大会委員会係

「第 部門」

朱書きで「第 部門」または「共通」

紙面による講演申込みの封筒の記入例

(3) 講演者の登録参加料

講演1件につき登録参加料(講演申込料, 参加費を含む。CD-ROM版講演概要集は配布)として10,000円(学生7,000円)+電子化経費5,000円を綴じ込みもしくは郵便局備付けの郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。振込手数料は各自ご負担願います。下記口座には会費を振込まないでください。

この登録参加料には、講演申込料, 大会参加費が含まれ、登録者には全部門の講演原稿を掲載したCD-ROM版講演概要集を配布します。なお登録参加料は、申込後に発表を取り消した場合でも、返金いたしません。

また、後払いの手続きは行いませんのでご了承の程お願いいたします。

年次学術講演会 郵便振替口座:

口座番号: 00180 8 16210

口座名: 社団法人土木学会

(4) 採否

採否については全国大会委員会にご一任ください。なお、投稿された原稿はお返しいたしません。

4 講演はせず聴講のみで参加される方

年次学術講演会の聴講のみを希望される方は、2003年6月2日(月)から7月31日(木)までに登録参加(聴講)申込みの手続きを済ませてください。講演者は、講演申込みを登録参加(聴講)申込みと兼用とするため改めて手続きをされる必要はありません。

講演プログラム等の詳細につきましては、2003年6月に土木学会ホームページと学会誌7月号において公表します。ご参照ください。

(1) 聴講のための登録参加申込みの資格

聴講のための登録参加申込みができるのは、個人の土木学会会員、非会員のいずれも可能です。ただし、登録参加料が異なります。詳細は「(3) 聴講者の登録参加料」に記載します。非会員の方はこれを機会に学会への入会をお勧めします。

学会への入会手続きをされる方は、インターネット入会申込受付サービスをご利用ください(http://www.jsce.or.jp/outline/admission/mem_p_f.html)。

7月31日(木)登録参加申込締切時まで、登録参加申込書と一緒に、インターネット新入会申込完了ページ(紙面による入会申込の場合は入会申込書)および会費の払込票兼受領証(郵便振替)のコピーを添付して、郵送あるいは持参してください。なお、海外の協定22学協会会員は本会会員とみなしますので、所属する学協会証のコピーを添付してください(学協会名は3ページをご参照ください)。

なお、聴講者の登録参加申込締切日間際には事務処理の混雑が予想されますので、あらかじめ余裕をもって土木学会入会の諸手続きをとられるようお願いいたします。

土木学会入会申込書の請求・送付先：
 (社)土木学会事務局会員課
 FAX 03-5379-2769
 E-mail: member@jsce.or.jp
 (入会申込書は土木学会ホームページ <http://www.jsce.or.jp/> の「入会案内」からの取り出し、または支部でも入手できます)

電話が大変込み合いますので、FAXの到着確認はご遠慮ください。

(2) 聴講者の登録参加申込み方法

下の登録参加の申込期間内に、土木学会事務局まで登録参加(聴講)申込書をFAX、郵送あるいは持参してください。

・FAXあるいは持参の場合：

2003年6月2日(月)～7月31日(木)17時

・郵送の場合：

2003年6月2日(月)～7月31日(木)(当日消印有効)

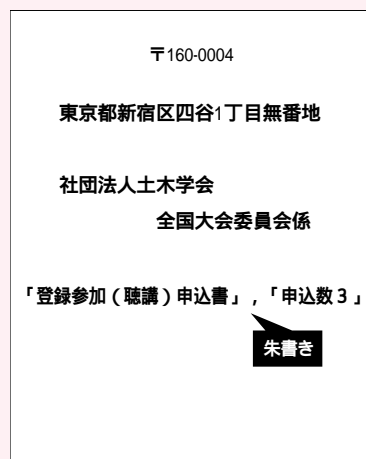
24ページ掲載の「聴講者の登録参加申込要領」掲載の申込書に所定事項を記入し、登録参加料を郵便局で納入した際の払込票兼受領証のコピーを添えて、FAX、郵送あるいは持参してください。

封筒に、「登録参加(聴講)申込書」と朱書きしてください。複数の登録参加(聴講)申込書を一括して申込み場合は、「申込数」も封筒に朱書きしてください。

なお、上記申込期間後(8月1日(金)～8月29日(金))や大会当日の登録参加申込みもできます。ただし、登録参加料が異なりますのでご注意ください。

問合せ・FAX または郵送先：

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地
 (社)土木学会 全国大会委員会係
 TEL 03-3355-3442, FAX 03-5379-0125
 E-mail: office@jsce.or.jp



聴講者の登録参加申込みの封筒の記入例

(3) 聴講者の登録参加料

聴講者の登録参加料(参加費、CD-ROM版講演概要集を含む)は、個人の土木学会の会員、非会員の別、および申込期間内の受付、期間後の受付の別によって、料金が異なります。下表をご覧ください。

非会員の登録参加料は、会員の登録参加料とは別料金とさせていただきます。登録参加(聴講)申込みとともに入会手続きをなさることをお勧めします。

		聴講者の登録参加申込時期	
		申込期間内 (2003/6/2～7/31)	申込期間後 (2003/8/1～8/29, 当日)
会 員	一般	10 000 円	12 000 円
	学生	7 000 円	8 400 円
非 会 員	一般	20 000 円	20 000 円
	学生	10 000 円	10 000 円

登録参加(聴講)申込み専用郵便振替用紙を使用して申込期限までに下記口座へお送りください。なお振込手数料は各自ご負担願います。下記口座には会費を振込まないでください。

また登録参加料は、申込後に聴講を取り消した場合でも、返金はいたしません。

また、後払いの手続きは行いませんのでご了承の程お願いいたします。

年次学術講演会 郵便振替口座：

口座番号：00180 8 16210

口座名：社団法人土木学会

共通セッションテーマ

年次学術講演会では7部門に分かれたセッションを設けます、さらに、これらの7部門を越えた研究および複数の部門に関連する、研究のテーマを対象として、共通セッションを設けます。

今年度の共通セッションには、後掲の16件が仮テーマとして選定されました。共通セッションにおける講演を希望される方は、第一志望欄に希望するセッションを明記して下さい。電子申込みの場合は、セッション選択ページから希望のセッションを選択してください。紙面申込みの場合は、CS（はセッション番号）と記してください。

また、仮テーマが成立しない場合のために、第二、第三志望欄に一般セッションの部門・名称を必ず書いてください。

共通セッションの最終的なテーマ名および構成は、講演申込み完了後、全国大会委員会で決定されます。申込み状況により、共通セッションを構成するに不十分なテーマについては、従来どおり各部門における発表とします。

なお、共通セッションの講演概要もCD-ROM版講演概要集に掲載されます。

CS1 計算力学

次の各分野における計算技術の発展・展開に関する研究を募集する。

- (a) FDM, FEM, BEM, メッシュレス法等の解析手法。
- (b) 高速解法, アルゴリズム, 適応型計算法, モデル生成, 可視化手法, 並列計算, マルチスケール法等の計算力学手法。
- (c) 破壊問題, 大変形問題, 材料非線形問題, 接触問題, 動的問題, 波動問題, 固体流体連成問題, 乱流, 移動境界問題, 地球環境・気象, 騒音問題, 逆問題, 最適化・制御問題等への応用。

CS2 メインテナンスとリニューアル - 持続可能社会への挑戦 -

少子高齢化や構造物の老朽化が進む中で、わが国の経済・社会の基盤である既存の社会資本を、できる限り小さい負担で合理的に維持し保全することが強く要請されている。本セッションは、ライフサイクルアセスメントおよびマネジメント、情報システム化、点検/計測/モニタリング、補修/補強、リサイクル、人材育成/資格制度などの視点から、部門横断的かつ多面的に持続可能社会実現のための土木技術のあり方を考える場としたい。

CS3 火山工学

本小委員会では、工学の立場から火山の恵みと災いに関する調査・研究を行ってきている。有珠山、三宅島での噴火災害、岩手山、磐梯山、浅間山の火山性地震、富士山の低周波地震等が発生しており、火山災害対策の必要性が高まっている。

本セッションでは、火山の恵みと災いに関する事例研究を対象とするとともに、火山防災教育のあり方や都市での

火山災害対策や火山防災計画などに関するテーマも対象とする。そして、火山工学という学問分野を確立するための議論も行う。

CS4 情報社会基盤の創発に向けて

IT技術の進歩は土木工学の分野にも多大な影響を及ぼしている。高速大容量計算とネットワークは生産側の省力/効率化の可能性と、消費側の人間を中心とした増力化/快適化の可能性を拓きつつある。一方で高度情報通信放送システムが他の技術と融合し、多相的(multi-modal)社会基盤を形成している事例もある。本セッションは従来の社会基盤整備のあり方を再検討しつつ、あるべき情報社会基盤の姿を考える場としたい。

CS5 地盤災害のリアルタイム検知技術

地震、土砂災害など自然災害が多い日本では、それらを防止する対策とともに、災害の発生をすみやかに検知する技術の確立が望まれる。最近ではさまざまな計測技術、情報処理技術を駆使して、災害を検知する研究が行われている。エネルギー土木委員会リアルタイム地盤変状検知小委員会ではこれらの検知技術の現状と未来について研究活動を行っているが、全国大会の1セッションとして関連する研究者にも参加してもらい討議することを考えている。「地盤災害をいかに計測し分析するか」、「得られた情報をどのように展開して防災対策に役立てるか」について小委員会委員と委員会外の研究者の発表・討議を行い、技術展望を確認する。

CS6 廃棄物のリサイクルによる新しい土木材料の開発と適用

建設発生土や浚渫土、コンクリート廃材、石炭灰などの大量に発生する「廃棄物」を、新しい土木材料として再利用する技術の開発と適用が各分野で進められている。これらのリサイクル材料の開発と普及においては、技術(材料の工学的特性)のほかコスト、安全性(環境影響評価など)、法律などの課題があり、複数の部門における知見を集めてよりよい解決策を探る。

CS7 道路橋床版

道路橋示方書の改訂により、設計法が性能照査型へと移行し、設計の自由度が大きくなった。これにより、床版においては、新規建設での長支間化、既設橋梁の補修・補強などの維持管理に対応するためさまざまな技術革新が図られ、構造改革が一段と進むと考えられる。ここでは、これらの技術を紹介し、課題や解決策を討議することにより、今後の技術発展を図る。

CS8 流域管理と地域計画の連携

河川は、治水、利水、環境といった多様な側面で地域と密接な関わりを持っており、そこに生じる諸課題には、水

工学と土木計画学が連携をして取り組むべき課題が多く存在する。本セッションは、河川をキーワードに、流域管理と地域計画の連携の視点から取り組んだ研究について、幅広く議論を展開し、今後の連携研究の活性化、新たな研究テーマの発掘を目指す。

CS9 土木分野におけるデジタル画像の利用と可能性

高画質で低価格なデジタルカメラの急速な普及や画像解析技術の進歩によって、設計・施工データのビジュアル化や工事写真管理、現場計測などにデジタル画像が手軽に利用されるようになってきた。また、動画も低コストでコンピュータで扱えるようになり、デジタル画像利用の新たな可能性が期待される。

本セッションでは、これらのデジタル画像を土木分野へ適用する種々の試みや事例に関する論文を募集する。

CS10 地下空間の多角的利用

地下空間を有効利用するために、総合的な観点（都市計画、法制、経済性、心理、生理、防災、環境、建設、維持管理、歴史、文学等）から、価値を再認識することが本セッションの目的である。ここでは都市部に限らず、幅広く地下空間利用の実例について注目し、多角的な利用を推進するための新しい視点・技術の提案、最新の知見を駆使した計画・実例を紹介する。

CS11 放射性廃棄物の処分技術

放射性廃棄物処分は、具体化に向けて処分技術の体系化の時期を迎えている。地層処分における地下施設的设计・施工は土木技術に基づく事業であり、土木技術者が責任を持って対処することが求められている。その現実に向けた課題は、耐震、岩盤物性評価、地下構造物設計、地下水流動、コンクリートの長期的耐久性評価など多岐にわたる。そのため、各部門の研究者が、議論できる場を提供するものである。

CS12 都市震災の危機管理

われわれの生命と社会、環境を地震災害からいかに守るべきか？震災に伴う損失を最小限に留めるため、リスクのコントロールとファイナンスがある。最近では、防災戦略の判断材料を合理的に提供するうえで地震リスク・クライシスマネジメントの手法が用いられている。本セッションでは、1) 震災前後の時系列的展開、2) ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアに応じた危機管理に関する種々の試みや事例研究を募集し、これからの都市震災軽減方策のあるべき姿を探る。

CS13 土木学会策定の土木CAD製図基準の果たす役割と今後のあり方

CALS/ECの進展により、国土交通省をはじめさまざまな発注機関で電子データ化を反映した独自のCADに関する標準・基準が策定されている。また、土木学会では維持管理も考慮した「土木CAD製図基準」を策定中である。本セッ

ションでは、これらの各製図基準を包括する形で土木学会がCAD製図基準を策定する意義と公共事業が管理側に重心をシフトしつつある中で維持管理にも焦点をあて、今後の土木CAD製図基準のあり方について議論する。

CS14 土木教育技術 - 国際的に通用する技術者の育成に向けて -

土木界においては、国際的に通用する土木技術者の育成とその技術力の確保が喫緊の課題である。技術者教育プログラム、技術者資格制度、継続教育（生涯学習）および倫理教育、建設マネジメント、情報技術（IT）等の新分野教育ならびに教育の国際交流や女性、外国人技術者の育成等の課題についての研究を促進することが重要である。これらは従来の技術分野の横断的課題であるため、共通セッションとして研究の深化を図るものである。

CS15 Codes and Standards, Code Harmonization in the Asian Region 設計基準と設計標準、アジアにおける基準の統一化の動向

英語発表によるセッションとし、英語を優先タイトルとする。

Considering the recent trend towards globalization, code harmonization in the Asian region is one of the most vital tasks for civil engineers. International projects in the Asian region have been planned and executed much more than in any other region in the world, and there is a big conflict over which standards to apply in countries that do not possess their own codes. This problem may hinder the efficient development of Asian infrastructure. In this session, Asian code harmonization attempts in various fields are accepted.

近年の国際化の動向を鑑みると、アジアにおける設計基準の統一化は重要な課題である。アジアでは、他の地域に比べると国際的的巨大プロジェクトが目白押しであり、自国の設計基準を持たない国でどの基準を適用するかは大きな争いとなっており、健全な社会基盤整備を阻害しかねない問題である。多くの分野におけるアジアコードの取り組みについて、紹介されることが期待される。

CS16 International Projects and Environmental Consideration - Case Studies

国際プロジェクトと環境への配慮 - ケーススタディ
英語発表によるセッションとし、英語を優先タイトルとする。

Design, management, construction and maintenance in overseas infrastructure projects by Japanese companies have been increasing in recent years. This session presents technical information regarding environment-conscious design and construction under various circumstances in different countries. Papers featuring examples of engineering significance on construction, management and environmental conservation in international projects are accepted.

日本の企業による国際プロジェクトにおける、設計、管理、施工、維持補修などの事例が増大している。このセッションでは、諸外国の種々の条件の元で、環境に配慮した設計、施工が行われていることについての技術情報の共有化を目的とする。このため、国際プロジェクトにおける、環境保全設計、施工事例を紹介する。

オーガナイザー

奥村文直 (財)鉄道総合技術研究所 浮上式鉄道開発本部計画部長

東京都中央区八重洲1-6-6 八重洲センタービル7F リニアPT

TEL 03-3274-9584 / FAX 03-5201-6641

E-mail : okumura@rtri.or.jp

特別セッションテーマ

本セッションは講演者をフェロー会員に限定した特別セッションで、フェロー会員から全世代の土木技術者へ提案や問題提起をしていただき、部門、世代を越えた議論の場を作ることを目指しています。そして、土木分野が21世紀の国づくりに果たす役割を考え、未来へ向けて情報を発信していきます。

電子申し込みの場合は、セッション選択ページからSS1を選択してください。紙面申し込みの場合は、SS1と記入してください。

なお、特別セッションの講演概要もCD-ROM版講演概要集に掲載されます。

SS1 いきいきとした国土のための技術と政策

土木技術は生産と消費の効率性を追及する手段から自然や文化に恵まれた豊かな生活を実現する手段へと転換を遂げつつある。この流れの中で、これまでに蓄積されてきた技術とその成果を引き継ぎ、そして、さらに発展させて、いきいきとした国土を将来に作り上げていくためには、土木技術者は何を、どのように為すべきであろうか。本セッションは、この問いかけに対して、フェロー会員にさまざまな立場から自由な意見を語っていただくことを意図している。いきいきとした国土づくりへ向けて、国家的理念から計画や建設の個別的な技術に至るまで広範な話題提供が行われることを期待している。

部門別セッション名

第I部門

固体力学、計算力学(構造)、計算力学(非構造)、計算力学(アルゴリズム)、弾塑性、有限変位、座屈・耐荷力(桁)、座屈・耐荷力(柱)、座屈・耐荷力(板)、座屈・耐荷力(その他)、骨組・骨組部材、薄肉構造、板、シェル、非破壊評価、破壊力学、疲労、溶接、接合、継手、合成構造(理論・実験)、合成構造(設計・施工)、床版、橋梁一般(設計)、橋梁一般(施工)、橋梁一般(測定)、エキスパートシステム、特殊構造、最適設計、安全性・信頼性、維持管理、構造計画、構造景観、橋梁振動(理論)、橋梁振動(実験・測定)、耐風・風工学(数値流体)、耐風・風工学(基礎)、耐風・風工学(応答予測・制御)、耐風・風工学(事例報告・観測)、振動、波動、衝撃(解析)、衝撃(実験)、振動制御(パッシブ)、振動制御(アクティブ)、振動制御(事例報告)、免震構造・設計、落橋防止構造、地震危険度・被害、断層変位の対策、地震動(震源特性)、強震動予測、地盤振動(観測)、地盤振動(解析)、動的応答解析法、地震応答解析、構造同定、橋梁の耐震、基礎の耐震、ダム・タンクの耐震、トンネルの耐震、都市施設の耐震、地中構造物の耐震、地震防災、リアルタイム地震工学、耐震設計法、診断・補修・補強、宇宙構造物、数値解析

第II部門

沿岸域の環境・生態系、沿岸域のアメニティー・人間工学、地球環境問題、自然共生、水圏環境の保全・再生・創造、水圏の生態系(魚類・底棲生物・植生等)、水質・生態系モデリング、物質輸送・循環(栄養塩類等)、河川の水環境、

閉鎖水域環境・水質(湖沼・貯水池)、水災害リスクマネージメント・危機管理、都市の水・エネルギー環境、地球規模の水・エネルギー循環、気候変動、社会変動と水循環、国際的プロジェクト・国際協力、波動、砕波・遡上、風波・不規則波、高潮・津波・長周期波、海底・海水面境界過程、沿岸域の流れ、波力・流体力・水力・地震力、波・流れ制御・利用構造物、海岸・海洋・港湾・水産施設、漂砂機構、飛砂・飛沫、海岸地形、漂砂制御、局所洗掘、底泥、海岸地盤、海岸災害・防災、海岸・海洋の資源・利用、港湾・海岸計画、流体力学、数値流体力学、乱流、管路の水理、開水路・複合水路(複断面・わんど)の水理、閉鎖水域の水理(湖沼・貯水池)、河口の水理・水質、拡散・分散、密度流、流砂(土石流、泥流、火砕流、掃流砂、浮遊砂、ウオッシュロード)、土砂の生産・流出、水系土砂管理、流路・河床形態、流路・河床変動、河川地形、ダム堆砂・排砂、流況制御、河道の水理、氾濫流の水理、河川工法、水理構造物、河川環境構造物(魚道・人工生息場等)、構造物周辺の流れ・洗掘、流体力学、植生水理、水理計測・観測手法、河川計画・管理、流域管理・計画、水災害・防災、都市の水災害、国際的水問題、地下水理・地下水文、水文予測と不確実性、水文・水循環計測、水文統計、流出・洪水、水資源計画・管理、大気水象(降水、雲)、水文現象のスケール効果、大気陸面相互作用(蒸発散、融雪、水・エネルギー循環)

第III部門

土の物理化学的性質、砂の変形強度、粘土の変形強度、土

の動的性質, 地盤の動的性質, 圧縮・圧密, 土圧, 地圧, 斜面安定, 地盤の応力と変形, 支持力, 透水・浸透, 岩の性質, 岩の工学的性質, 試験法・調査法, 岩盤評価, 現場計測, 杭, 基礎工, トンネル, シールドトンネル, 地下空洞と地下構造物, 地下利用, 掘削, 土留め, 土質安定処理・地盤改良, 流動化処理土, 補強土, 締固め, 路床・路盤, フィルダム, 凍結・凍土, 特殊土, 地盤環境, 安全性・信頼性, 数値解析, 施工機械, 火山工学

第IV部門

計画理論, 土木史, 信頼性・リスク分析, 社会・経済分析評価, プロジェクト評価, 計画情報・情報処理, 測量・リモートセンシング, 施工管理計画, 資源・エネルギー, 防災計画, 災害分析, 地域・都市計画, 土地利用計画, 環境計画, 景観デザイン, 景観調査・分析, 景観認識, 景観評価, 観光・余暇計画, 交通調査方法論, 交通発生, 交通分布, 交通手段分担, 交通配分, 交通ネットワーク, 交通アセスメント, 交通需要マネジメント, 交通情報提供, 交通サービス評価, パブリックインボルブメント・住民参加, 地区交通, 駐車場・駅前広場, 歩行者・自転車交通, 高齢者・身障者交通, タクシー・STサービスの交通政策・交通システム, 公共交通, 港湾計画, 空港計画, 物流, 道路工学, 交通流, 交通制御, 交通公害, 交通事故, 鉄道工学(軌道力学), 鉄道工学(軌道保守・軌道構造), 鉄道工学(一般), 鉄道工学(防災), 開発途上国

第V部門

路面評価(舗装), 構造評価(舗装), 構造設計(舗装), 維持・修繕(舗装), 路床・路盤, アスファルト系舗装, セメント系舗装, 特殊舗装, 舗装一般, リサイクル, 材料一般, 新素材・新材料, 骨材, 混和剤, 混和材, フレッシュコンクリート, 高流動コンクリート, 水中コンクリート, 軽量コンクリート, 吹付けコンクリート, 繊維補強コンクリート, 連続繊維補強コンクリート, プレストレストコンクリート, 海洋コンクリート, 特殊コンクリート, コンクリート製品, 物性, 引張・圧縮, クリーブ・収縮, ひび割れ, 温度応力, 施工, ポンプ圧送, 締固め, 維持管理, 耐久性, 腐食・防食, 凍結融解, アルカリ骨材反応, 非破壊検査・診断, 補修・補強, 破壊力学, せん断・ねじり, 耐震, 付着・継手, 疲労・衝撃, 合成・複合構造, 数値解析, 構造設計, 耐久性設計, 廃棄物利用, 再生コンクリート, 環境保全(エコ, 緑化), リニューアル

第VI部門

建設マネジメント, プロジェクトマネジメント, 公共マネジメント, 調達問題, 公共政策, 組織・人材育成, 入札・契約, 積算・見積, 建設技術評価, 建設産業・建設市場, PFI, 資金調達, コスト管理, 品質保証, 品質管理, 工程管理, 安全管理, 建設CALS, 情報化施工, 知的情報処理, 施工計画, 海外工事, 建設環境(リサイクル・土壌浄化・水質浄化・廃棄物・緑化), リニューアル(維持管理・補修・補強・更新), 検査技術・診断, 測量・計測, GPS, リモートセンシング, GIS, 耐

震・免震, 施工技術, 技術開発, 新材料・新素材, 各種基礎, 土留め, 地盤改良, 景観設計, 設計概念, 河川構造物, 港湾・海洋構造物, 空港, 橋梁, 開削トンネル, シールドトンネル, 山岳トンネル, 地下構造物, ダム, 特殊構造物

第VII部門

環境計画, 地球環境問題, 途上国環境問題, 環境意識・環境教育, 環境倫理, 環境経済, ライフスタイル, 環境影響評価, 循環型社会, 物質循環システム, ライフサイクルアセスメント(LCA), 環境リスク評価・管理, 環境モニタリング・解析, 生態系モニタリング・解析, 地域環境計画・管理, 水辺環境計画・管理, 流域環境計画・管理, 森林・植生, 緑化, 環境保全, 環境創造/ピオトープ, 生態工学, バイオレメディエーション, 環境浄化技術, 自然浄化機能, 水環境モデリング, 水環境(河川環境, 湖沼環境, 海域環境), 底泥環境, 浄水処理, 下水処理, 物理化学処理, 嫌気性処理, 好気性処理, 膜分離・処理, 生物膜処理, 栄養塩除去, 高度処理, 汚泥処理・処分・資源化・リサイクル, 廃棄物収集・処理・処分計画, 埋立処分場管理, 循環資源・廃棄物のリサイクル, 都市環境, 大気環境, 悪臭, 熱環境・エネルギー, 騒音・振動, 遺伝子工学, 微生物, 毒性評価, 有害物質環境汚染, 内分泌攪乱化学物質汚染, 土壌・地下水汚染(分析, 修復技術), 水資源・水需給, 上下水道管理, 都市雨水流出管理

共通セッション

- CS1 計算力学
- CS2 メンテナンスとリニューアル
- 持続可能社会への挑戦 -
- CS3 火山工学
- CS4 情報社会基盤の創発に向けて
- CS5 地盤災害のリアルタイム検知技術
- CS6 リサイクル材の地盤工学への有効利用
- CS7 道路橋床版
- CS8 流域管理と地域計画の連携
- CS9 土木分野におけるデジタル画像の利用と可能性
- CS10 地下空間の多角的利用
- CS11 放射性廃棄物の処分技術
- CS12 都市震災の危機管理
- CS13 土木学会策定の土木CAD製図基準の果たす役割と今後のあり方
- CS14 土木教育技術
- 国際的に通用する技術者の育成に向けて -
- CS15 Codes and Standards, Code Harmonization in the Asian Region (設計基準と設計標準, アジアにおける基準の統一化の動向)
- CS16 International Projects and Environmental Consideration - Case Studies (国際プロジェクトと環境への配慮 - ケーススタディ)

特別セッション

- SS1 いきいきとした国土のための技術と政策

講演申込要領 (電子申込み)

最新情報・変更事項

この要領が発行されて以降の最新情報や変更事項については、以下の土木学会全国大会委員会ホームページ上に掲載します。実際に申し込む前に早めに確認しておいてください。

<http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/>

早めの申込み・投稿をお願いします。

締切間際には、かなりの件数の申込みが殺到するものと予想されます。その場合、原稿ファイルを送るのに1時間以上を要したり、ホームページへのアクセス自体が困難になるなどの不都合が生じると考えられます。システムを快適に使用するには、なるべく早めの申込みをお願いします。

投稿締め切り1週間前までの投稿をお勧めします。

締め切り1週間前までに限り、原稿ファイルを電子化して送信した直後に、実際に届けられたファイルを一度確認し、ファイルの破損、文字化け等をチェックすることができます。1週間前を過ぎますと、この確認ができなくなります。

申込み内容・投稿原稿は後で修正ができません

いったん、申込み・投稿を済ませると、修正・差替えはできません。申込み・投稿は慎重に行ってください。

申込み締切後に確認を行ってください

申込み締切後に、確認期間を設けます。申込み・投稿ファイルに破損がないか、会員自身で必ずチェックしてください。確認期間は4月8日～4月15日です。

トラブル発生時の措置

万が一、トラブルが生じた場合の措置については、土木学会ホームページ上に掲載します。その指示にしたがって対応してください。

大まかな手順

1. ホームページ上での申込みと投稿
申込み期間中に、土木学会ホームページ上で申込み書に記入事項を入力し、原稿ファイルを送信する。
2. 確認用ハガキの郵送
電子申込みの際に表示された受付番号等をハガキに記入し、払込票兼受領書のコピーを貼付して事務局宛に郵送する。
3. 申込み・投稿内容の確認
申込み期間終了後の確認期間中に、申込み・投稿した内容を自分でチェックする。何らかの破損が見られたら、事務局に連絡して対応を要請する。

1. ホームページ上での申込みと投稿手順の概要

- (1) 講演者の会員番号と生年月日を入力して認証を受ける。
- (2) 講演者の氏名、所属、その他の項目を入力する。
- (3) その内容を確認し、必要があれば修正する。
- (4) 原稿ファイルを指定して送信する。
- (5) その内容を確認し、必要であれば再投稿する。内容がよければ、申込み・投稿を完了する。
(5)で「完了」をクリックすると、修正・再投稿はできません。慎重をお願いします。
最後の「申込み・投稿完了ページ」には、確認ハガキに記載する内容や、後日に申込み確認を行う際に必要な情報が表示されます。メモをとるか、プリントアウトするか、ファイルとして保存するか、など、何らかの手段で記録を残してください。

手順の詳細

- (1) 土木学会全国大会委員会ホームページから「大会実施要領」のページにアクセスする。URL アドレスは下記のとおりです。

http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h15/index_h15.html

- (2) ここで「電子申込みのページ」をクリックし、さらに「電子投稿」をクリックする。画面1が表示されるので注意書を良く読み、会員番号欄に講演者の会員番号を、生年月日欄に生年月日を入力し「次へ」ボタンをクリックします。正しく認証されると画面2が表示されます。

< 画面1 >

第58回年次学術講演会 講演申込(平成15年度)
— 論文題目・要旨入力 —
(日本語/英/英語)

各項目を入力し「次へ」ボタンをクリックして下さい。
各項目は必須ですので、入力されたら必ず次に進めません。

「要旨の言語」で日本語を選択した場合は、題名、要旨、キーワードの和文が必須項目となります。
「要旨の言語」で英語を選択した場合は、題名、要旨、キーワードの英文が必須項目となります。

原稿フォーマットと同一の題名を入力して下さい。
題名、要旨にも「次へ」ボタンが用意されています。

和文	題目	要旨	キーワード	要旨の言語
英文	題目	要旨	キーワード	要旨の言語

要旨の言語: 日本語 / 英語

要旨: 本研究は、研究の目的、要旨(特色)、結論などを300字以内で簡明に記述して下さい。英文要旨は空白も含めて半角600字以内で記入して下さい。キーワードは単に表題中の語を再録するのではなく、その研究が検索される上で最も効果的と思われるものを和文・英文ともそれぞれ6個以内で記入して下さい。内容を確認したら「次へ」ボタンをクリックして下さい。

キーワード

和文	1	2	3	4	5	6
英文	1	2	3	4	5	6

次へ

< 画面5 >

- (6) 画面5では、題目、概要、キーワードを入力します。まず、原稿の言語、講演の言語の種別を選択します。次に題目を入力します。主題の他に副題もある場合は、それも入力してください。文字数は、和文全角100文字以内、英文半角200文字以内です。また、一連の研究の何編かに分けて発表する場合は、それぞれが1編ごとに独立した内容でなければ講演できません。この場合、副題を「その1」「その2」等とだけ付けて講演題目とすることは避けてください。題目は必ず論文ファイルの題目と一致させてください。

要旨は、研究の目的、要旨(特色)、結論などを300字以内で簡明に記述してください。英文要旨は空白も含めて半角600字以内で記入してください。キーワードは単に表題中の語を再録するのではなく、その研究が検索される上で最も効果的と思われるものを和文・英文ともそれぞれ6個以内で記入してください。内容を確認したら「次へ」ボタンをクリックしてください。

第58回年次学術講演会 講演申込(平成15年度)
— 連名者・連絡先入力 —
(日本語/英/英語)

各項目を入力し「次へ」ボタンをクリックして下さい。
各項目は必須ですので、入力されたら必ず次に進めません。

所属機関は自己登録者の入力方法にて「株式会社」「個人(Individual)」等を入力して下さい。
所属(部署)は必ずしも登録者を参照して下さい。
所属(部署)は略称でも構いません。個人の場合は、M7欄はこの欄に記入して下さい。

連名者の下位2人の方はプログラム及び講演要目目次には掲載されません。

フリガナ	所属	フリガナ
名前(姓/名)	会員種別	所属機関及び所属
FAMILY/GIVEN NAME	MEMBER TYPE	AFFILIATION
連名者1	正会員	東京大学工学部
連名者2	正会員	東京大学工学部
連名者3	正会員	東京大学工学部
連名者4	正会員	東京大学工学部
連名者5	正会員	東京大学工学部
連名者6	正会員	東京大学工学部
連名者7	正会員	東京大学工学部
連名者8	正会員	東京大学工学部
連名者9	正会員	東京大学工学部
連名者10	正会員	東京大学工学部
連名者11	正会員	東京大学工学部
連名者12	正会員	東京大学工学部
連名者13	正会員	東京大学工学部
連名者14	正会員	東京大学工学部
連名者15	正会員	東京大学工学部
連名者16	正会員	東京大学工学部
連名者17	正会員	東京大学工学部
連名者18	正会員	東京大学工学部
連名者19	正会員	東京大学工学部
連名者20	正会員	東京大学工学部

送付先・連絡先について「F」「TEL」「FAX」は半角で入力して下さい。
TEL/FAXは半角10桁以内で入力して下さい。
また、この欄に所属機関の正式名称を入力して下さい。
自宅連絡の場合は「別項」を選択して下さい。

CD-ROM送付先	氏名	TEL	FAX
連絡先	氏名	TEL	FAX
	E-Mail		

次へ

< 画面6 >

- (7) 画面6では、連名者情報、参加証・CD-ROM送付先、連絡先を入力します。連名者の入力4名まで可能、ただしプログラム目次には、紙面の都合上、連名者欄上段から2名までしか掲載されません。連名者欄の入力方法は(3)を参照してください。

参加証・CD-ROM送付先欄では、後日参加証・CD-ROMを送付する郵便番号、住所(部署、学科・研究室名まで)、氏名を入力します。連絡先欄は、後日連絡をとる上で必要な項目です。特にE-mailアドレスは迅速な情報伝達に必要です。内容を確認したら「次へ」ボタンをクリックしてください。

- (8) 画面7(画面は省略します)では、今まで入力した内容を一覧表示します。内容に誤りや文字化けなどの破損がないか今一度チェックし、よければ「次へ」ボタンをクリックし、修正する場合は、「戻る」ボタンをクリックします。



<画面8>



<画面9>



<原稿ファイル参照ダイアログ>



<原稿ファイルのプロパティダイアログ>

(9) 画面 8 では、論文原稿ファイル (PDF) を投稿します。投稿する PDF ファイルは必ず、Acrobat Distiller でフォントの埋め込みを行い、PDF を作成してください。ファイルサイズは500KB 以内です。

ファイル欄に投稿するファイル名をドライブ名からフルパスで入力します。直接タイプでも可能ですが、「参照」ボタンをクリックしてダイアログから指定した方が確実に簡単です (<原稿ファイル参照ダイアログ>を参照)。このとき、ファイル名には、ドライブ名およびパス (経由するすべてのフォルダ) も指定されていることを確認してください。

内容を確認したら「次へ」ボタンをクリックしてください。これにより、原稿ファイルはシステム側に送信されますが、送信にはファイルサイズや回線の混雑具合から、かなりの時間を要する場合があります。必ず次の画面 9 が表示されるまで、待機してください。

(10) 画面 9 では、投稿した論文の確認を行います。システム側が受け取ったファイルサイズを表示しますので、自分が送ったファイルサイズと一致するか確認してください。原稿ファイルの正確なサイズは、MS-Windows では、ファイルのプロパティを参照すれば確認できます (<原稿ファイルのプロパティダイアログ>を参照)。

締切り1週間前までに申し込んだ方は、システム側にあるファイルを実際に参照できます。参照方法は「投稿された論文の確認」をクリックします。するとパスワード入力ダイアログが出ますので、ユーザ名に会員番号、パスワードに (3) で入力したパスワードを入力します。正しく認証されればファイルが参照できます。なお、参照するには Acrobat Reader がインストールされていることが必要です。

ファイルサイズが異なっていたり、ファイルを参照して破損が認められたりした場合には、「戻る」ボタンをクリックし再投稿してください。問題がなければ「完了」ボタンをクリックしてください。ただし、一度このボタンを押してしまうと、論文ファイルの再投稿はできないので慎重に行ってください。



<画面10>



<画面11>

- (11) 画面10で受付番号が採番され、申込み・投稿が完了したことになります。ここには、後で確認ハガキに記載する内容や、申込確認・修正時に使うパスワードが表示されます、メモをとる、プリントアウトする、ファイルとして保存するなど、何らかの手段で記録してください。

2. 確認用ハガキの郵送

ホームページ上での申込み・投稿が完了したら、確認用ハガキに必要な事項を記入のうえ、払込票兼受領証のコピーを貼付して、事務局あて郵送してください。このハガキは後日、参加料納付の確認や、事務局側で電子申込みの確認を行う際に必要なものです。必ずお送りください。書式と送付先については、本実施要領の4ページを参照ください。

3. 申込み・投稿内容の確認

申込締切後に、確認・修正期間を設けます、申込み・投稿ファイルに破損がないか会員自身でチェックしてください。極端な場合、システムのトラブルで「申込みしたこと自体」が失われている場合がありますので、この確認作業は必ず行ってください。手順は以下のとおりです。

- (1) 土木学会全国大会委員会ホームページから「電子投稿内容確認のページ」にアクセスします。URL アドレスは http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h15/web_gate_2.html です。



<画面12>

- (2) 画面11が表示されますので、注意書を良く読み会員番号欄に会員番号、パスワード欄に、申込みの際に登録したパスワードを入力します。「次へ」ボタンをクリックします。

正しく認証されると画面12が表示されます。この時点で認証されてない場合には、事務局に連絡してください。具体的な連絡先・方法は、土木学会全国大会委員会ホームページに掲載します。

- (3) 画面12では、申込みされた内容に破損がないかチェックします。原稿ファイルを参照するには、「投稿された論文の確認」をクリックします。するとパスワード入力ダイアログが出てきますので、ユーザ名に会員番号 パスワードに(2)で入力したパスワードを入力します。

正しく認証されればファイルが参照できます。また、参照するには Acrobat Reader がインストールされていることが必要です。確認し、よろしければ「終了」ボタンをクリックしてください。修正する場合には「修正」ボタンをクリックしてください。(注意：PDFファイルの修正はできません。) 原稿ファイルに何らかの破損が見

第58回年次学術講演会 講演申込確認・修正
 ～ 申込修正 ～

各項目を入力し「次へ」ボタンを押して下さい。
 各種内容は必ず入力してください。

実行ID番号

本席セッション(本席1)に変更する場合は、セッションが対応している場合が限られますので、必ず本席(本席1)の部屋に該当する部門、セッションを選択して下さい。

席別	部門	席(部屋)
第1正席	セッション	本席1
第2正席	部門	第1部門
第3正席	セッション	本席1
第4正席	部門	第1部門
第5正席	セッション	本席1
第6正席	部門	第1部門

「開席の部屋」で行なう変更の場合は、部屋、棟別、キーワードの指定が必要となります。
 「開席の部屋」で英語を選択の場合は、部屋、棟別、キーワードの英文が必要となります。

原席フォームと同一の部屋を選択して下さい。
 部屋、棟別は「実行ID番号」欄には入力しないで下さい。

< 画面 13 >

られる場合には、事務局に連絡してください。具体的な連絡先・方法は、土木学会全国大会委員会ホームページに掲載します。

- (4) 画面 13 では、申込書の修正が行えます。入力方法は申込みの際と同じです。内容を確認し「次へ」ボタンをクリックしてください。

第58回年次学術講演会 講演申込確認・修正
 ～ 講演申込確認 ～

申込内容を確認してよろしければ「完了」ボタンを押して下さい。
 修正する場合は、「戻る」ボタンを押して下さい。

本席セッションを参照すると入力されますので確認して下さい。

実行ID番号

席別	部門	席(部屋)
第1正席	セッション	本席1
第2正席	部門	第1部門
第3正席	セッション	本席1
第4正席	部門	第1部門

GD-ROM 印刷送付先

郵便番号	〒100-0004
都道府県	東京都千代田区
市区町村	千代田区五反田
番地	1-1-1

連絡先

連絡先氏名	田中 太郎
TEL	03-3375-3440
FAX	03-3375-3440
E-Mail	tyouj@tdk.ac.jp

< 画面 14 >

- (5) 画面 14 で、修正内容を確認します。よろしければ「完了」ボタンをクリックします。

以上

講演申込要領（紙面申込み）

- 講演申込書の用紙は本要領（18, 19 ページ）に掲載してありますので、見開きの左右ページを 1 枚（A3）にコピーしてお使いください。
- 講演申込書のデータは、土木図書館目録・書誌検索システムに登録するためのデータベースを兼ねておりますので、各項目漏れなく記入してください。
- 講演部門の欄は講演を希望する部門を で囲んでください。共通セッションまたは特別セッションでの講演希望の場合は、共通/特別セッションを で囲んでください。
発表希望セッション名の欄には、講演内容に該当するセッション名を講演分類セッション一覧表の中から選んで記入してください。また、共通/特別セッションの場合は、共通/特別セッションのテーマ番号（CS 1～CS 16, SS 1）を発表希望セッション名の欄の第 1 志望欄に記入してください。なお共通セッションを希望されてもセッションが構成されない場合がありますので、講演内容に該当する部門名・セッション名を第 2 志望, 第 3 志望の欄に記入してください。
このセッション名はプログラム編成する上で必要なものですから必ず記入してください。なお、該当するセッションがない場合は希望に最も近い名称を書いてください。
- 講演題目は主題のほか、副題がある場合は副題まで記入してください。なお、一連の研究を何編かに分けて発表する場合は、それぞれが 1 編ごとに独立した内容でなければ講演できません。この場合、副題を「その 1」「その 2」等とだけ付けて講演題目とすることはご遠慮ください。題目は必ず論文の題目と一致させてください。また、原稿の言語、講演の言語の種別を で囲んでください。
- 和文概要は、研究の目的、要旨（特色）、結論などを 300 字以内で簡明に記述してください。英文概要はデータベースの国際的な流通促進のため、空白も入れて半角 600 字以内で記入してください。
- キーワードは単に表題中の語を再録するのではなく、その研究が検索される上で最も効果的と思われるものを和文・英文ともそれぞれ 6 個以内で記入してください。
- 講演者・連名者の氏名は姓、名の順に記入してください。フリガナ、英文も同様にしてください。
- 所属機関および部課名は次の場合を除いて省略しないでください。
「株式会社」「財団法人」「Limited」「㈱」等は記入しない。
所属が長い名称のときは部課名を省略しても結構です。
略称の方がよく知られている場合（JR, NTT 等）は、略称で結構です。
なお、所属が英字形だけの場合は英文欄のみ記入してください。
- 連名者は 4 名まで可能ですが、プログラム目次には、紙面の都合上、連名者欄上段から 2 名までしか掲載されませんのでお含みおきください。会員種別欄はフェロー会員、正会員、学生会員等の別を で囲んでください。会員番号は必ず記入してください。
なお、協定学協会会員のお申込みは、記載例を参照の上、学協会名（英文略称）および会員番号を記入して下さい。
- CD-ROM・参加証送付先は、部署、学科、研究室まで精確な宛先を記入してください。また連絡先は、後日連絡を取る上で必要となりますので必ず記入してください。
- 講演者の登録参加料（電子申込みができない場合、申込内容および講演原稿の電子化に伴う経費 5 000 円が別途必要になることにご注意ください）は本誌綴じ込みもしくは郵便局備付の郵便振替用紙を使用して申込締切日までにお支払ください。また、入金確認のため、講演申込料欄に払込票兼受領証のコピーを添付してください。事務局にて確認した後に、大会までに講演者の方用に参加証および CD-ROM 版講演概要集をお送りします。
なお、参加証および CD-ROM 版講演概要集の発送は 9 月上旬を予定しておりますので、この時期確実に届く住所を記載してください（申込み後、住所変更された場合は、下記全国大会委員会係へご連絡ください）。
- 講演申込書・原稿提出日時
(1) 郵送の場合 - 2003 年 4 月 3 日（木）
《当日消印のものまで有効》
(2) 持参の場合 - 2003 年 4 月 4 日（金）
17 時《必着厳守》
- 提出先・問合せ先
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目無番地
(社) 土木学会全国大会委員会係 宛
TEL 03-3355-3442, FAX 03-5379-0125
E-mail : office@jsce.or.jp

第58回年次学術講演会 講演申込書（平成15年度）

講演希望 部門・セ ッション	第1志望	講演部門	I II III IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	
	第2志望	講演部門	I II III IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	
	第3志望	講演部門	I II III IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	

共通セッションを第1志望にする場合は、17ページの講演申込要領3.に従いご記入ください。
講演部門は該当する部門名を で囲んでください。

題 目	和文		原稿の言語
	英文		講演の言語

題目は論文の題目と一致させてください。

和文概要 (300字以内)	
英文概要 (空白も入れて半角600字以内)	

キ ー ワ ー ド	和文 (M)	1.	2.	3.
		4.	5.	6.
	英文 (N)	1.	2.	3.
		4.	5.	6.

講演者は個人の土木学会会員に限ります。

フリガナ	年 齢	フリガナ
名前(姓/名)	会員種別	所属機関および部課名
FAMILY/GIVEN NAME	会員番号	AFFILIATION

講演者	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
連名者	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
連名者	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /

本枠内以外の方はプログラムおよび講演概要集目次には掲載されません。また、()内には海外協定学協会の略称を入れてください。

参加証・送付先	宛先氏名 /	送付先種別 (印をつけてください)	1.勤務先	2.自 宅
	住所 (部署名, 学科・研究室名, アパート名等まで詳しく記入のこと)	〒 -		

連絡先	連絡者氏名 /	連絡先種別 (印をつけてください)	1.勤務先	2.自 宅
	TEL: FAX: E-mail:			

登録参加料	登録参加料	月 日	送金額: 円
	払込日	(払い込み 済み ・ 予定)	(他講演者と合算のときは内訳(氏名・部門)を通信欄へ)
	払込方法	郵便振替 ・ 持参(現金)	
	通信欄: 払込済み郵便振替受領証の縮小コピーを必ずこの欄にのり付けしてご提出ください。		

事務局記入欄	受付 No.	登録参加料	原稿受付	部 門	No.
		/	/		
	事務局記入	事務連絡用番号	注記		
		講演番号等		ページ	~
	センター記入	会議番号	レコード番号		

学会情報

第58回年次学術講演会 講演申込書（平成15年度）

講演希望 部門・セ ッション	第1志望	講演部門	I II ③ IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	支持力
	第2志望	講演部門	I II ③ IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	基礎工
	第3志望	講演部門	I II ③ IV V VI VII 共通/特別セッション	セッション名	地盤の応力と変形

共通セッションを第1志望にする場合は、17ページの講演申込要領3.に従いご記入ください。
講演部門は該当する部門名を で囲んでください。

題 目	和文	支持力深さ係数に関する実験と考察	原稿の言語 ① 日本語 2. 英語
	英文	Experimental studies on the depth factor in the theory of bearing capacity	講演の言語 ① 日本語 2. 英語

題目は論文の題目と一致させてください。

和文 概要 (300字以内)	基礎の根入れ，形状などさまざまな条件に対応して地盤の極限支持力を厳密に求めることは困難である。実用的には通常的支持力係数（ N_c ， N_q ， N ）を修正した一般支持力係数を導入するやり方が推奨される。
	本研究では塑性論的考察より，一般支持力係数のうち深さ係数を解析的に導く事を試みた。同時に，間隙比 e を $0.65 < e < 0.75$ に調整した模型砂地盤に対し，基礎巾 $B=2\text{cm}$ の帯基礎， $2R=3\text{cm}$ の円形基礎および $B=3\text{cm}$ の方形基礎を根入れ D を $0 \sim 14\text{cm}$ として支持力実験を行った。
英文 概要 (空白も入れて半角300字以内)	This paper describes both the analytical and experimental investigation for determining the depth factor appeared in the original bearing capacity formula. The results of analysis indicate the depth-factor in terms of cohesion d_c is nearly equal to the factor in terms of surcharge d_q , which is given by $1+0.2D/B$, where D and B denote the depth and width of the foundation.
	On the other hand, the experimental results give the relation $d_q=1+0.15D/B$. The difference between the analysis and experiments is due to local failure occurred during the test for greater depth.

キ ー ワ ー ド	和文	1. 支持力	2. 深さ係数	3. 形状係数
		4. 模型実験	5. 数値解析	6. 支持力公式
	英文	1. bearing capacity	2. depth factor	3. shape factor
		4. model test	5. numerical analysis	6. bearing capacity formula

講演者は個人の土木学会会員に限ります。

フリガナ	年 齢	フリガナ
名前(姓/名)	会員種別	所属機関および部課名
FAMILY/GIVEN NAME	会員番号	AFFILIATION

講演者	(フリガナ) ヨツヤ / タロウ	24 才	(フリガナ) ドボクダイガク / コウガクブ
	(名前) 四谷 / 太郎	F・ 正 ・学・協定()	(所属) 土木大学 / 工学部
	(英語) Yotsuya / Tarou	1 9 0 0 9 9 9 9 9	(英語) Doboku-Univ /
連名者	(フリガナ) イチガヤ / ジロウ	22 才	(フリガナ) シナノマチコウカダイガク /
	(名前) 市谷 / 次郎	F・正・ 学 ・非・協定()	(所属) 信濃町工科大学 /
	(英語) Ichigaya / Jirou	1 9 0 0 9 9 9 9 8	(英語) Shinanomachi I.T./
連名者	(フリガナ) イダバシ / サブロウ	50 才	(フリガナ) スイドウバシケンセツ / ギジュツブ
	(名前) 飯田橋 / 三郎	F・ 正 ・学・非・協定(ASCE)	(所属) 水道橋建設 / 技術部
	(英語) Iidabashi / Saburou	1 9 0 0 9 9 9 9 7	(英語) Suidobashi Construction/
連名者	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・協定()	(所属) /
(英語) /		(英語) /	

本枠内以外の方はプログラムおよび講演概要集目次には掲載されません。また、()内には海外協定学協会の略称を入れてください。

参加証・送付先	宛先者氏名	四谷 / 太郎	送付先種別 (印をつけてください)	①勤務先 2.自宅
	住所 (部署名, 学科・研究室名, アパート名等まで詳しく記入のこと)	〒160 - 0004 東京都千代田区五谷5丁目3番地 土木大学工学部土木工学科コンクリート研究室		

連絡先	連絡者氏名	四谷 / 太郎	連絡先種別 (印をつけてください)	①勤務先 2.自宅
	TEL : 03-3355-3441	FAX : 03-3355-3441	E-mail : yotsuya@doboku-u.ac.jp	

登録参加料	登録参加料	月 日	送金額:	円
	払込日	(払い込み 済 み・予定)	(他講演者と合算のときは内訳(氏名・部門)を通信欄へ)	
	払込方法	郵便振替 ・ 持参(現金)		
通信欄: 払込済み郵便振替受領証の縮小コピーを必ずこの欄にのり付けしてご提出ください。				

事務局記入欄	受付 No.	登録参加料	原稿受付	部 門	No.
	事務局記入	事務連絡用番号	注記		
	センター記入	会議番号	ページ	レコード番号	~

学会情報

講演原稿執筆要領

本文は、PDF ファイルによる電子投稿原稿作成の執筆要領です。印刷物による投稿については、本要領の書式に準じて作成してください。

WEB でも詳しく案内しています。http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h15/index_h15.html

1. 目的

講演概要集の目的は、聴講者の便宜のため、かつ来場できない会員に講演内容を伝えるために作成します。したがって、聴講者が研究の目的、考え方、手法および結論を理解できるように配慮してください。

2. データ書式

原稿は、Adobe Acrobat 4.0 または 5.0 を用いて変換された、PDF ファイルで提出していただきます。ファイルサイズは500 KB 以内とし、印刷した場合のページ数がA4判2ページとなるよう原稿を作成してください。これを超えた原稿は受け付けられません。また、投稿するファイルはPDF 形式とし、圧縮ツールは使用しないでください。

なお、Adobe Acrobat Reader 5.0 (アドビシステムズのホームページよりダウンロードできます)を用いて、作成したPDF ファイルの原稿が執筆者の意図したとおりに印刷されることを確認してください。

PDF 化にあたっての解像度の設定は制約を設けません。上記のファイルサイズ以内に納まる限り、執筆者の自由とします。ただ、印刷した場合を考慮すると、テキストおよび白黒ビットマップ画像の解像度は1200 dpi 程度、カラーおよびグレースケールのビットマップ画像(写真等)の解像度は300 dpi 程度が目安になります。(Adobe Acrobat Distiller 4.0 もしくは 5.0 におけるジョブオプションの「Print Optimized」に相当)

なお、CD-ROM 編集の障害となりますので、PDF ファイルにパスワードの設定は絶対に行わないでください。

3. 使用アプリケーション

原稿作成に使用するプラットフォーム/アプリケーションソフトは問いませんが、最終的に投稿するファイルはPDF 形式 (Version 1.3 互換) とし、Adobe Acrobat Reader 5.0 で表示/印刷できるものとします。

PDF 化にはいくつかの方法がありますが、上記を満足する限り、執筆者の判断で適宜選択していただいて結構です。

4. 用紙設定

A4 判縦 (210 × 297 mm) とし、上下余白各 18 mm、左右余白各 15 mm を必ず確保してください(上下余白は、柱、ページ記入に必要です)。

5. 書式

横書き、48 文字/行、42 行/ページ程度を標準とします。(2 段組でもよい) 本文の文字の大きさは 10 または 10.5 ポイント程度とし、フォントは英数字は Time (Times New Roman) / Helvetica / Symbol 等を、日本語は明朝/ゴシック等を使用してください。

日本語フォントにおけるギリシャ文字()等の使用は可能ですが、機種/フォントに依存する特殊文字(、

、、^{m2}等)、半角カナおよびHG系のフォントは文字化け等の原因となりますので使用しないでください。

上記は、異種プラットフォームにおけるファイルの互換性を確保するために必要です。

6. 表現方法

文字色は黒とします。図・表・写真等については色の制約はありませんが、白黒モニタ/プリンタに出力した際に問題が生じないように配慮してください。

なお、原稿の中に関連するホームページへのリンクを作成しても構いません。

7. 書き出し

原稿の1ページ目には、題目・勤務先・会員種別・氏名・本文の順に書いてください。

題名は第1行の中央に配置し、左側は後からの講演番号記入用にマージンから20 mm 程度あけるようにしてください。次に、1行あけて、勤務先・会員種別・講演者名(連名の場合は登壇者(前に 印を記入)、連名者の順)を右側に寄せて書き、1行あけて本文を書き出してください。

8. キーワード・連絡先

1ページ目最下段に罫線を入れ、キーワード(6語まで)および連絡先を記述してください。

9. 図・表・写真

図・表・写真等は原稿に張付けた状態でPDF 化することとし、別ファイルにしないでください。

10. 原稿の取扱い

電子申込みをする場合、原稿ファイルは同時に送信することになりますので郵送の必要はありません(電子申込み要領を御覧ください)。

ただし、何らかのトラブルで印刷原稿を郵送していただく必要が生じる可能性がありますので、原稿ファイルは削除しないで保存しておいてください。

印刷原稿の場合は、裏面の上段中央に部門・ページ数・登壇者名および題目の始めの5~6文字(例: I-1/2, 全国太郎,)における...)を鉛筆で明記してください。なお、原稿は汚したり、しわにしたりしないように注意してください。

なお、掲載された原稿は返却いたしません。

11. 原稿受付期間・提出先

PDFファイル(電子受付)の場合

受付期間: 2003年3月3日(月)~2003年4月4日(金) 17時

提出先: 年次学術講演会電子申込みページ

http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h15/web_gate.html

印刷原稿(郵送)の場合

受付期間: 2003年3月3日(月)~2003年4月3日(木) 当日消印有効

提出先: 〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地 (社)土木学会全国大会委員会係宛

印刷原稿（持参）の場合

受付期間：2003年3月3日（月）～2003年4月4日（金）
17時

提出先：東京都新宿区四谷1丁目無番地
（社）土木学会全国大会委員会係（総務課）

原稿は期限内に届くようにしてください。
電子受付の場合、締切直前はサーバが大変混雑することが予想されるため、できるだけ早めの申込みをお願いします。
郵送の場合、封筒の表に一般セッション申込みの方は部門（第 部門）を、共通/特別セッション申込みの方は「共通」または「特別」と朱書きしてください。

12. 採否

採否は全国大会委員会にご一任ください。

13. 問合せ先

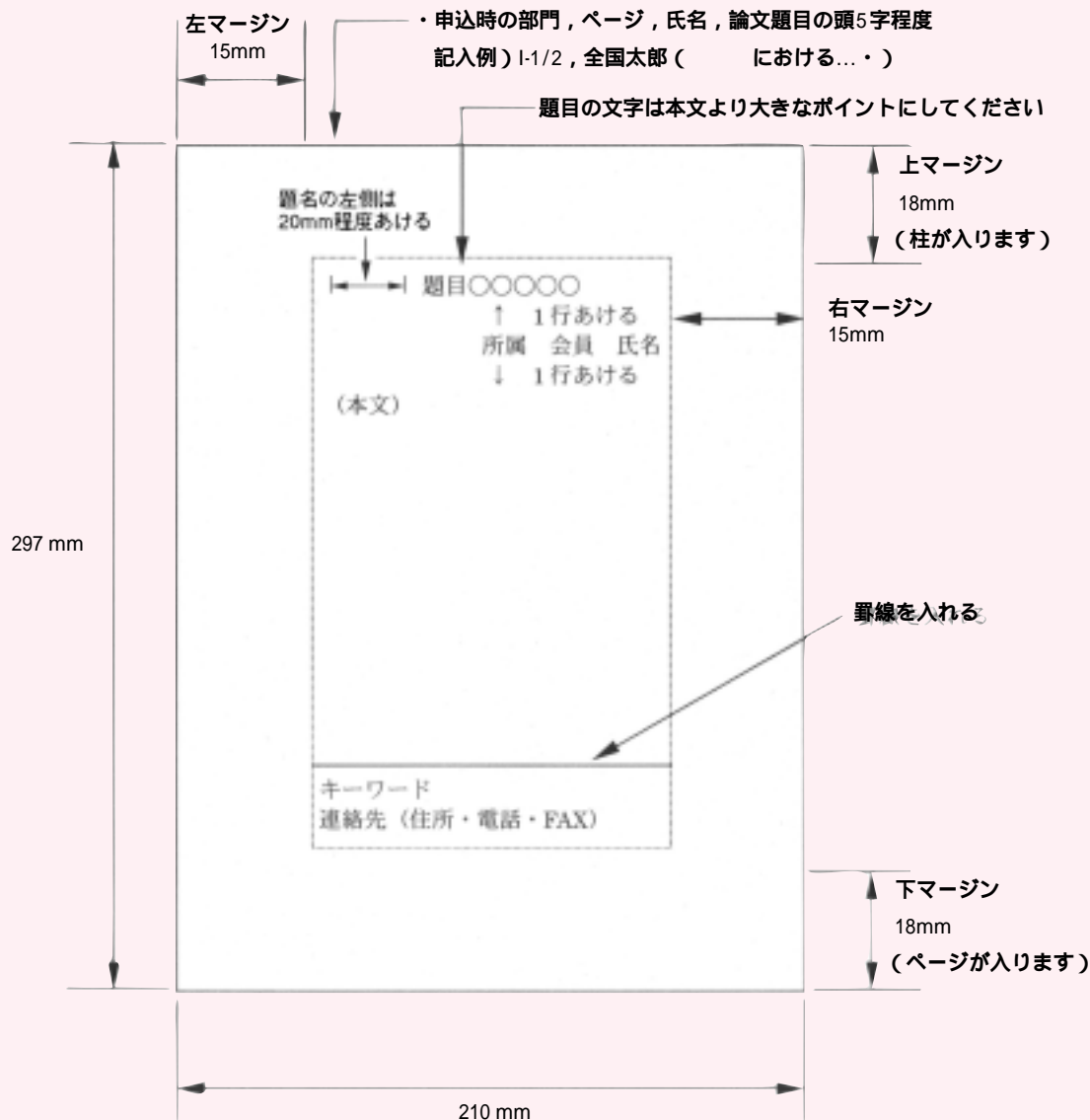
〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地
（社）土木学会全国大会委員会係宛
電子申込み：TEL 03-3355-3433 FAX 03-5379-2769
E-mail：inf2@jsce.or.jp
紙面申込み：TEL 03-3355-3442 FAX 03-5379-0125
E-mail：office@jsce.or.jp

14. 参考ホームページ

・アドビシステムズ：http://www.adobe.co.jp/

原稿の書式（1ページ目）

印刷原稿の場合、執筆要領の10.に従い、原稿裏面の上段の余白に記入してください。



注) 点線の囲み枠は印字いただく範囲を示したものですので原稿には不要です。

聴講者の登録参加申込要領

1. 登録参加申込期間2003年6月2日(月)～7月31日(木)までに登録参加申込書(25ページ)をFAX(17時までに必着)、郵送(当日消印有効)または持参(17時までに必着)してください。FAXの場合、送信票(表紙)はつけないで発信してください。郵送の場合、封筒に、登録参加申込書と朱書きしてください。

申込先:

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目無番地
 (社)土木学会 全国大会委員会係
 TEL 03-3355-3442, FAX 03-5379-0125

2. 登録参加料は学会誌7月号綴じ込みの登録参加申込専用郵便振替用紙または郵便局の払込取扱票を使用して申込締切日までに下記口座にお支払ください。また、入金確認のため、登録参加料欄に払込票兼受領書の縮小コピーを添付してください。事務局にて確認した後大会までに、参加証およびCD-ROM版講演概要集をお送りします。
 なお、登録参加料は振込後の返金はできません。

年次学術講演会 郵便振替口座:

口座番号: 00180 8 16210
 口座名: 社団法人土木学会

3. 参加証およびCD-ROM版講演概要集は郵送いたしますので、送付先は郵便番号から正確に詳しくご記入ください。送付先が勤務地の場合は、勤務先名称・部署名(大学の場合研究室名まで)を必ずご記入ください。なお、複数人でお申込みの場合は、参加証送付先記入欄に記入してある方にまとめてお送りいたします。
4. 登録参加料は、土木学会の会員、非会員の別、および申込期間内の受付、期間後の受付の別によって料金が異なりますのでご注意ください。また、当日受付は現金払いです。後払いの手続きは行いませんので、ご了承の程お願いいたします。

		聴講者の登録参加申込時期	
		申込期間内 (2003/6/2～7/31)	申込期間後 (2003/8/1～8/29, 当日)
会 員	一般	10 000 円	12 000 円
	学生	7 000 円	8 400 円
非 会 員	一般	20 000 円	20 000 円
	学生	10 000 円	10 000 円

5. 滞りなく速やかに登録処理を行うため、記入漏れがないよう今一度ご確認のうえお送りください。

第58回年次学術講演会 登録参加（聴講）申込書（平成15年度）

（FAX番号：03-5379-0125）

《開催日時：2003年9月24日（水）～26日（金）》

登録参加申込期間：2003年6月2日（月）～7月31日（木）

（申込期間後：2003年8月1日（金）～8月29日（金））

該当する欄に 印をつけてください。会員の方は会員番号もご記入ください。

フリガナ 聴講（参加）申込者氏名	正会員（個人） 10 000 円 (12 000 円)	学生会員 7 000 円 (8 400 円)	非会員 20 000 円	学生非会員 10 000 円
合計人数	名	払込合計金額（振込手数料はご負担ください。）		円
登録参加料	払込日	月 日 （払い込み 済み・予定）		
	払込方法	郵便振替 ・ 持参（現金）		
	通信欄：払込済み郵便振替受領証コピーを必ずこの欄にのり付けしてご提出ください。			

参加登録申込期間後（2003/8/1～8/29，当日）は登録参加料が異なりますのでご注意ください。

参加証送付先	住所及びTEL	〒 -		
	勤務先名称 <small>（部署名，学科・研究室名等まで記入）</small>	TEL：	FAX：	E-mail：
	氏名			

事務局記入欄	受付日	受付 No.	登録参加料
	/		/
	/		/
	/		/

学会情報